

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	日本語とコミュニケーションB		
英文授業科目名	Japanese Communication B		
開講年度	2004年度	開講年次	3, 4年次
開講学期	6, 8(5, 7)学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	田中 真理		
居室	P-209		

公開E-Mail	授業関連Webページ
mari@fedu.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>日本語のコミュニケーションについて、今回は「書く」ことを中心に勉強します。「書く」ことによって、頭の中を整理できると思います。最終的には、いっしょに「いい文章とは何か」について考えたいと思います。</p> <p>1. 「音声談話」(spoken discourse)と「文章談話」(written discourse)の違いは何でしょうか。「文章談話」にはどんなジャンルがありますか。例えば、Eメールは、書かれた文章ですが、相手や目的によっては「音声談話」の要素も出てきます。</p> <p>2. 「外来語」は、留学生にとって便利ですか？それとも、難しいですか？日本人にとってはどうでしょう？</p> <p>3. 「いい文章」というのは、どういう文章でしょうか？単に文法の間違いの少ない文章ではありませんね。お互いに自分の書いた文章を評価してみましょう。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>なし</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>留学生：日本語第一、第二、第三</p>

【教科書等】

新聞、雑誌、パンフレット、本など

【授業内容とその進め方】

基本的に、まず自分で「書く」、それから、みんなで「話し合う」という順序で授業を進めていきます。

基本的に、「書く」ことはクラス内で完成させ、なるべく宿題を少なくしたいと思っています。決められた時間内に文章を完成させることは、これから社会に出て行く人には必要なことです。

1. 「日本語のコミュニケーションで困ったことはなかったか・日本人でもミスコミュニケーションはなかったか、面白い経験はないか」
2. 「現代の外来語」について、議論します。
3. いろいろな場面を想定して、「メール」を書いてみます。みんなでそれを見せ合い、どうすれば、誤解のない、効率的なメールが書けるか考えます。
4. いくつかのジャンルの文章を書いて、お互いに評価してみます。そして、「いい文章」とはどのような要素を備えたものか考えます。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

クラス内での作業を重視します。

出席：10%

授業での貢献度：10%

課題の提出（クラス内での提出も含める）：60%

最終発表（レポートを含む）：20%

（予定です）

【オフィスアワー：授業相談】

オフィスアワー

（火）4時30分～5時30分

（木）2時45分～3時30分

【学生へのメッセージ】

留学生と日本人学生が、論理的に（単なるおしゃべりの場ではなく）意見を交わせる場にしたいと思っています。日本人学生には留学生に負けられないような「論の展開」を、留学生にはこれまで学んだ「日本語」を披露し、さらなる磨きをかける場としても活用することを期待します。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【その他】